



常禱院

徳山藩祖毛利就隆が慶安3年（1650年）野上に移住したころは、真言宗の宗祖弘法大師が建てられた多くの坊は、数百年を経てほとんど廃絶していたが残っていた遠石八幡宮十二坊の一つ、常灯坊を館の裏山に移し、真言宗常禱院として毛利家の祈禱所とした。

元禄13年（1700年）三代藩主元次のとき、金剛山長久寺常禱院と改め、文化元年（1804年）八代藩主広鎮が再び祈年山常禱院と改称した。

常禱院東側の地蔵様



## 岐山の文化財

### 杉氏父子の墓（市指定文化財）

杉元相は弘治3年（1557年）野上氏に代って野上の領主となり、1585年1月26日64歳で没した。（法名興元寺殿興仲元家大居士）

元相の子元宣は、1589年3月6日の夜、野上庄の沖、大島の船隠という所で毛利氏に謀られて、非業な最期をとげた。（法名法眼院殿覚永元正大居士）

杉氏父子の墓は興元寺にあり、市に関係ある領主の墓としては最も古く、安山岩製の宝篋印塔で、元相の塔が150cm、元宣の塔が123cmで、近世初頭の様式をよく保っている。

